

勿凝学問 224

政府の報告書にはこういうのもある
「高齢者医療制度に関する検討会」報告書の読み方

2009年3月23日
慶應義塾大学 商学部
教授 権丈善一

昨年9月24日、麻生さんが第92代内閣総理大臣になる日——まだなっていなかったと思うんだけど——、田町の駅から大学までの道を歩いていると、携帯がなる。知らない電話番号からの電話だったので訝しげにでてみると、舛添さんから——「高齢者医療制度に関して検討会を作りたいので、参加してほしい。第1回目は、明日25日に行いたい……」。なぜ、彼は、僕の携帯番号を知っているんだ？——思ったことは、そんなことくらいだった。

この「高齢者医療制度に関する検討会」は、7回の会合を終えて今年3月17日に終了した。そして次の僕の発言は、報告書をどのようにまとめるかが議論となった3月11日のものである。先ほど、議事録のチェックを終えたので、「政府の報告書にはこういうのもある」ということを紹介するために、ここに貼り付けておくことにした。

会議の終盤……

○塩川座長 では、権丈先生、どうぞ。

○権丈委員 岩本先生が次回いらっしやなくて非常に残念で、私はほとんどというか全く同じ考えでして、せつかくこれだけ研究者と言いますか、利害関係者でない人たちが集められているわけですから、第三者としていろんな人たちがこの制度の動きとかを見ていくための評価軸というもの、理屈というものを提示していけばいいではないか。

その理屈ということしか言わない我々だから力を持っていないんですけども、力によって理屈がどれだけゆがめられていくのかという軸を我々が出すことができれば、もうそれでいいではないか。それが我々の仕事だろうというのが私の根っこの部分にあります。

そういう意味で、先ほどの岩本先生の話は、ここの図のところでも65歳以上と書いておりますけれども、同じような仕組みを全年齢に適用するというのが実は理屈の上ではベストだというのがあります。その中で、同時に国保の中の被用者を限りなくこの被用者保険に入れるというようなことも含めて、岩本先生と私は同じ考えです。

ただ、余りにも急激な変化というものがよろしくないというのであれば、激変緩和措置として65歳以上という形で岩本先生の言うリーズナブル、私の言うセカンドベスト、この前は

組合健保についての逃げ口と表現したのですけれども、この辺りに置いておけばいいのではないかとこのところであって、私としてはこの会のまとめ方として理屈でいくというのだら、岩本先生の全年齢というものを前面に出すべきだと思います。

そして、第2のリーズナブルなラインという形でこの辺りに納めておくというぐらいがいいのではないかと考えておりますし、パート労働の厚生年金適用みたいなのところも、我々研究者レベルでは、理屈で言えば答えはみんな一致します。研究者レベルでの答えは全然意見が分かれな。だけれども、最終的な法案になって政策になっていくときにはずれが出てくるわけなんです、それは力が動かしたと我々は国民に評価していただきたい。そのための軸というものを我々が提示することができれば、このかよわい研究者グループと言いますか、何のバックも持っていないような人たちが集まってやっている仕事というのは、1つの意義があるのではないかと考えております。

その5分ほど後——さすがに次の発言をしているときは、舛添大臣も塩川座長も笑っていた。

○権丈委員 とにかくここでの報告書は理詰めでまとめることができるような方向でお願いしたいと思います。理詰めで我々としてはこういうことを考えている、専門家がみんなで考えればこういうふうになるというところ。パート労働の厚生年金適用と同じように、報告書と違うような政治状況が出来ると我々は怒る、反発する。今までは味方をしていたけれども、それはないだろうという形で怒らせていただきますので、そこら辺のところは御了解いただければと思います。

「高齢者医療制度に関する検討会」の報告書は、上記の視点から読んでおいてくださいな。